

おけのこ

ユネスコエコパークに 登録された祖母・傾山系

2017年度一般会計 6月補正予算

今回の補正額3,363,709千円の殆どは、国庫補助金など国の財源の繰入れです。これにより、今年度の県一般会計予算総額は613,169,709千円(前年度同時期対比△1.2%)となりました。

1. 子育て支援策充実事業

平成30年4月の待機児童の解消に向け、認定こども園の保育所部分の整備に要する経費に対し助成する。

【補正額】962,282千円(累計1,650,535千円)
・整備箇所: 13施設(大分市ほか8市町)
・補助率: 3/4(基金1/2,市町1/4)

2. 児童福祉施設整備事業(新規)

幼稚園型認定こども園における防犯対策を強化するため、非常通報装置・防犯カメラなどの整備に要する経費に対し助成する。

【補正額】42,616千円
・整備箇所: 14施設(宇佐市ほか6市町)
・補助率: 3/4(国1/2,市町1/4)

3. 県産豚「米の恵み」競争力強化対策事業

養豚農家の収益力向上を図るため、畜産クラスター計画に基づく県産ブランド豚「米の恵み」の生産基盤拡大に向けた豚舎などの整備に対し助成する。

【補正額】893,571千円(累計900,008千円)
・整備箇所: 1施設(竹田市)
・補助率: 1/2

4. プロフェッショナル人材活用連携強化事業(新規)

県内企業の事業拡大等を図るため、人材ビジネス事業者を活用し、県内企業が必要とするプロフェッショナル人材の確保を支援する。

【補正額】20,000千円
・マッチングイベント等の開催
・プロフェッショナル人材戦略全国協議会の活用

5. 緊急地すべり対策・砂防改修事業

豊後大野市で発生した地すべり活動を抑えるため、対策工事と地すべり防止区域の変更指定を行うほか、基本計画を作成する。

【補正額】1,445,240千円(累計1,772,240千円)
・整備箇所: 豊後大野市朝地町綿田地区
・事業内容: ボーリング調査、観測機器設置 地すべり対策工事(抑制・抑止工)

第2回 定例県議会

大分空港へのアクセス改善、第四次産業革命への対応など 全九項目について一般質問

六月十三日、二〇一七年 第二回定例県議会が全十六日間の日程で開会され、私 は次の九項目に関する一般質問を行いました。

△質問項目▽

- 一、第四次産業革命について
- ①OITA4.0
- ②技術革新
- 二、九州の東の玄関口の機能充実について
- ①空港へのアクセス改善
- ②物流拠点化の推進
- 三、健康アプリについて
- 四、若者支援策について
- ①婚活支援
- ②県人寮
- ③高校生の通学支援
- ④県内就職率の向上

一 大分版第四次産業革命 OITA4.0について

(木田) 十八世紀末から三次にわたる産業革命を通じて技術革新は社会に様々な変革をもたらしました。本県が挑戦する「OITA4.0」により、五年後あるいは十年後の大分の産業にどのような変革を起こそうと展望しているのか、その具体像について知事の考えをお聞かせください。

(答弁) 知事 農業分野では、農場の栽培環境データを分析し、農作物の品質向上や出荷時期の最適化を図り、高付加価値化が期待されます。ものづくり分野では、人工知能やロボットの力で自動化

され、生産性の向上が考えられます。サービス分野では、高齢者のバイタルデータの分析が進み、認知症予防に役立つシステムが構築され、健康寿命の延伸に貢献することが考えられます。多くの地域課題が解決され、新たな産業の活力が生まれる社会の実現をめざし挑戦する。

(木田の見解) AIによる技術革新が発達するにしても、人間がAIに支配されて働くようなことを招いてはなりません。

一 大分空港へのアクセス改善について

(木田) 九州各県の空港と

比較しても、大分空港のアクセス条件は時間や手段の両面において決して良いものとは言えません。新たなアクセス手段の開設計画は、喫緊の課題だと思えます。大分空港へのアクセスに対する現状認識と、新たなアクセス手段の開設計画に対する県の見解をお聞かせください。

(答弁) 企画振興部長 大分空港は県中心部まで空港バスで約六十分かかり、全国の空港の中でも時間・料金ともに利便性が低いと認識しています。空港への新たなアクセス手段として、かつてのホバークラフトのような海上交通手段の可能性について関係者による勉強会を始めたところです。

引き続き、空港利用促進期成会や交通事業者等の関係者と取組んでいきます。

(木田の提案) 自身で長崎空港の航路を調査してきたが、西大分港から空港行き的高速船舶航路を開設すべきと考える。また、ナイトクルージングへの活用も考えられないか。

一 物流拠点化の推進について

(木田) 九州の東の玄関口としての拠点化戦略」において「物の流れの課題」があります。外航のコンテナ航路ですが、国際拠点港である博多港及び北九州港に対抗し、大分港大在地区の利用への転換をどのように進めていくのか、今後の具体的戦略についてお聞かせください。

(答弁) 土木建築部長 県内の貨物であっても博多港や北九州港などを利用してある実態があることから、荷主に対し大分港利用のインセンティブを付与し、競争力を強化する戦略が必要と考えます。このため、これま

での県内の大分港から遠い地域の貨物に対する陸送費用の助成に加え、今年度より、県外の港から大分港へ利用転換した場合の助成制度を創設したところです。県としては、荷主や船会社等を訪問しポートセールスに取組むとともに、港湾施設の整備を行い、物流拠点化を推進していきます。

(木田の提案) 石炭、丸太等のバルク貨物など、全体の物量を調査し、名実ともに「九州の東の物流拠点」となるよう、6号C-2地区も含めた、県港湾計画の見直しが必要。



県議会ホームページにて一般質問の中継録画を視聴できます

紙面の都合上、質問と答弁のすべてを紹介できず、申し訳ございません。なお、県議会HPにて過去分も含め、一般質問の全録画を視聴できます。

(「<http://www.oita-pref.stream.jfit.co.jp/>」 →「議員から選ぶ」→「木田昇」を選択)



土木建築委員会 管内事務調査

県議会では、第2回定例会前に各所属の常任委員会ごとの班編成で、各所管の事務・事業や施設の状況等を調査しています。

私は土木建築委員会の委員に選出されています。県内11の土木事務所で状況の聞き取りを行ったほか、現地26箇所を視察してきました。

工事中の岸壁が完成すれば、西日本最大級の公共岸壁になります。（写真後方のクレーンはこの港からトルコ共和国へ輸出されます）

ありませんでしたが、県道と河川が完全に塞がれ、一時通行止めとなっていました。命綱一本による懸命の作業により、完全復旧には至りませんが、現在は通行可能となっております。最初の地震から二週間後に崩落が発生していることを考えると、地震の影響の恐ろしさを思い知らされます。

朝地町綿田地区の大規模地すべり―現地の安全、生活再建を急ぐ―

別府港環境整備事業(北浜地区)―おんせん県おいたイメージUP―

竹田水害緊急治水ダム ―災害に強いまちへ―

私の生まれ故郷「竹田」は自然に恵まれた地域ですが、これまで度々の大水害を受けてきました。七年前に「稲葉ダム」が完成したものの、平成二十四年の九州北部豪雨では、またもや甚大な被害が発生しました。「玉来ダム」は五年後の完成に向けて本體工事を進めています。一日も早い完成が求められます。



港湾事業佐伯港女島地区 ―県南地域の産業を支える港湾を整備―

東九州自動車道の開通により、佐伯港は県南地域の流通拠点としての役割が期待されます。佐伯港では国の直轄事業で水深十四メートルの岸壁が整備され、五万トン級の船が入港できますが、現在



県道飯田高原中村線―重要な観光路線の完全復旧を―

同路線は、風光明媚な飯田高原から九重ICに接続する地域の重要路線です。沿線には、「九重」夢「大吊橋」や紅葉の名所「九酔溪」があり、観光振興に大きく寄与しています。しかし、昨年の熊本地震と梅雨前線豪雨により、崖崩れ等の被害を受け、一部区間は片道通行の仮復旧の状態です。完全復旧はもろろん、景観保全のため、崩れた崖等の修復もお願いしました。

上野川・西大山大野日田線 災害復旧工事―命綱一本、懸命の作業を実施―

昨年の熊本地震の影響で地盤が緩み、高さ約九十メートル・幅約六十メートルにわたる山腹が大崩落した日田市大山町の現場です。人的被害は



中津日田道路整備事業 ―中津～日田間の所要時間が約二十分短縮―

中津市と日田市とを結ぶ全長約五十キロメートルの地域高規格道路で、九州横断自動車道や東九州自動車道と連結し、循環型ネットワークを形成する路線です。耶馬溪を経由する観光道路とも言えますが、中津港からの木材輸出が好調であり、産業道路としての機能も大きく期待されます。



中津3号トンネル掘削現場

突如、四百メートル×二五〇メートルの地盤が動き始め、集落内に亀裂・陥没が徐々に広がりました。地盤が動く速度は、最大で一時間あたり二十ミリを超え、時間もあつたようです。原因と見られる地下水を抜き取る作業が続けていますが、地すべりが完全に止まる状況には至っておりません。区域内の住民は避難生活が続き、田植えも制限され、住民生活に大きな影響が出ています。県は、国の補助も受け、豊後大野市と連携して復旧に取り組んでいます。一日も早い現地の安全、生活再建を願っております。



―空撮用ドローンで現場を確認―



防災士 木田昇の 防災メモ

―台風シーズンを迎えます―

熱帯低気圧の中心付近で吹く風の風速が17.2m/sを超えると、名称が「台風」へと変わります。

台風の風速は10分間の平均風速を基準にしています。とすれば、突風とも言われる「最大瞬間風速」は、平均風速の1.5倍から3倍に達することもある訳です。

一方、風圧は風速の2乗に比例するため、風速が2倍になると風圧は4倍に、風速が4倍になると風圧は16倍になる計算です。

台風を構成する積乱雲には、上下の強い気流が発生しており、台風の周辺では「竜巻(上昇気流)」や「ダウンバースト(下降気流)」による突風が吹くことも予想されます。

台風シーズンの到来です。台風情報には十分に注意してください。

「日本一のおんせん県おいた」は、本県をイメージするキャッチフレーズとして定着しています。本事業は、観光客や市民の憩いの場として緑地帯を整備するものです。別府の北浜地区はホテルの再建も進み華やかさを取り戻そうとしています。が、せっかくながら芝生が整備されても雑草だらけでは台無しです。地域と連携して、芝生の手入れが継続できる仕組みづくりが大切だと申し添えたところです。



県議会広報委員会副委員長とラグビーW杯大分開催協議会委員に選任



大分県議会広報委員会の全メンバー

大分県議会広報委員会の副委員長に選任されました。議員が現地へ出向く「出前県議会」や「議員出前講座」の実施など、県民により身近な県議会となるよう広報活動を推進していきます。

また、2019年のラグビーワールドカップ大分開催に伴い、県民の機運醸成や諸課題解決に向けた調査・検討を行う協議会の委員に選出されました。

竹の子記

久しぶりに一般質問を行う機会をいただきました。今回の質問を行うにあたっては、かなりの調査・研究を積み重ねてきました。▼大分空港へのアクセス改善の質問では、高速船の航路開設を提案するにあたり、空港航路のある長崎空港へ行ってみました。また、「広島⇄四国」の高速船にも日帰り強行で実際に乗船してきました。（ゆつたりシートで乗り心地も抜群でした）▼物流拠点化の推進に関しては、地元の大在公共ふ頭はもろろん、宮崎県日向市にある細島港にも行ってきました（想像以上に整備が進んでいました）▼大分の木材輸出も好調です。大在の埋立地には企業誘致も予定されており、積極的な港湾整備を期待するところです。▼「健康アプリ」については、「健康ポイント」を大分県で運用することだったので、早稲田大学での「地域ポイント」のセミナーを受講し、併せて東京都内にある「県人寮」（学生会館）も現地視察してきました。▼東京の「ど真ん中」で家賃が二万円を切る寮もあります。県人寮を運営していないのは、九州内では大分と長崎のみです。運営手法は色々あると思いますが、何とか実現したいものです。▼「真実は現場にあり」。今後も見聞を広め、政策提案に結び付けます。

公式ホームページ＆ブログ

木田昇の議会・政務活動を随時更新中。



“大分県議会議員 木田昇”で検索
「http://oita-kida.net/」

*県民クラブ HP はコチラ
(http://www.oct-net.ne.jp/shakai-1/)